

## 結 果 の 概 要

### 1. 栄養素等の摂取状況

昭和55年調査における国民の全国平均1人1日当たり栄養摂取量は表1のとおりである。

年次推移でみると近年は各栄養素とも特に目立つほどの変化はないが、前年(54年)と比較した場合、エネルギー及びたん白質、脂肪といった主要栄養素をはじめ各種のミネラル、ビタミンなどの栄養素についてもすべて減少を示している。

表 1 栄養素摂取量の年次推移

(1人1日当たり)

	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年
エネルギー kcal	2,096	2,184	2,210	2,188	2,159	2,149	2,167	2,113	2,084
たん白質 g	69.7	71.3	77.6	80.0	78.7	78.8	80.0	78.4	77.9
うち動物性 g	24.7	28.5	34.2	38.9	38.1	38.6	39.8	39.4	39.2
脂 肪 g	24.7	36.0	46.5	52.0	52.4	53.8	54.7	54.8	52.4
うち動物性 g	9.2	14.3	20.9	27.4	27.0	28.0	28.2	28.7	27.2
炭水化物 g	399	384	368	337	332	326	326	315	313
カルシウム mg	389	465	536	550	548	550	562	548	535
鉄 mg	13	-	-	13.4	13.7	13.8	13.9	13.3	13.1
ナトリウム (食塩換算) g	-	-	-	14.0	14.2	13.7	13.8	13.1	13.0
ビタミンA IU	1,180	1,324	1,536	1,602	1,724	1,810	1,853	1,628	1,576
ビタミンB <sub>1</sub> mg	1.05	0.97	1.13	1.11	1.18	1.19	1.19	1.18	1.16
ビタミンB <sub>2</sub> mg	0.72	0.83	1.00	0.96	1.02	1.04	1.06	1.03	1.01
ビタミンC mg	75	78	96	117	117	124	123	115	107

一方、昭和55年の栄養摂取量を調査対象の平均栄養所要量に対する比率でみると図1のとおり、エネルギー、たん白質、鉄、ビタミンB<sub>1</sub>、ビタミンCについては所要量を充足してはいるものの、カルシウム、ビタミンA、ビタミンB<sub>2</sub>については若干下回っている。

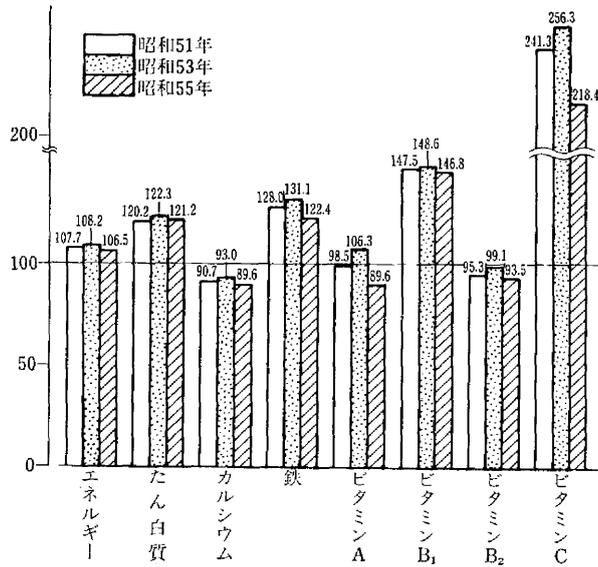
### 2. 食品の摂取状況

昭和55年調査における国民の全国平均1人日当たりの食品群別摂取量は表2のとおりである。

前年(54年)に比べて米類、魚介類、乳・乳製品は、わずかながら増加をしたが、油脂類、豆類、果実類等は減少を示した。特に、これまで増加傾向にあった肉類の摂取量と比較的安定した摂取を示していた卵類の摂取量がともに減少をみたことが目立っている。

各食品群について年次推移をみると、米については近年減少傾向が鈍化していたところであるが、55年調査ではわずかながらも前年(54年)を上回る摂取量を示した。また、豆類、いも類、卵類、油脂類、

図 1 栄養素摂取量と調査対象の平均栄養所要量との比較  
(調査対象の平均栄養所要量=100)



海藻類については、横ばいあるいは頭うちの摂取状況にあるといえよう。このように全体的に食品の摂取が停滞しているなかで、乳・乳製品だけはわずかながらも引き続き増加傾向がみられる。

表 2 主要食品群別摂取量の年次推移 (全国平均1人1日当たり：g)

	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	
穀類	米類	358.4	349.8	306.1	248.3	243.0	234.5	233.7	222.9	225.8
	小麦類	65.1	60.4	64.8	90.2	91.6	92.4	93.3	96.3	91.8
いも類	64.4	41.9	37.8	60.9	63.3	61.9	60.8	63.9	63.4	
油脂類	6.1	10.2	15.6	15.8	17.0	17.7	18.3	18.0	16.9	
豆類	71.2	69.6	71.2	70.0	68.5	67.7	67.6	69.4	65.4	
緑黄色野菜	39.0	49.0	50.2	48.2	56.3	59.3	59.5	51.0	51.0	
その他野菜	175.1	170.4	199.1	198.5	203.5	210.9	206.4	204.4	200.4	
果実類	68.7	58.8	81.0	193.5	170.5	180.9	181.3	166.5	155.2	
海藻類	4.7	6.1	6.9	4.9	5.5	5.0	5.6	5.3	5.1	
調味嗜好飲料	55.2	87.8	126.7	119.7	113.4	116.4	122.4	115.6	109.7	
魚介類	76.9	76.3	87.4	94.0	90.1	88.5	92.8	88.8	92.5	
肉類	18.7	29.5	42.5	64.2	64.4	68.4	69.2	71.7	67.9	
卵類	18.9	35.2	41.2	41.5	40.3	40.8	41.6	41.1	37.7	
乳・乳製品	32.9	57.4	78.8	103.6	100.6	106.8	110.0	112.9	115.2	

図 2 食品群別摂取量の年次推移 (1人1日当たり)

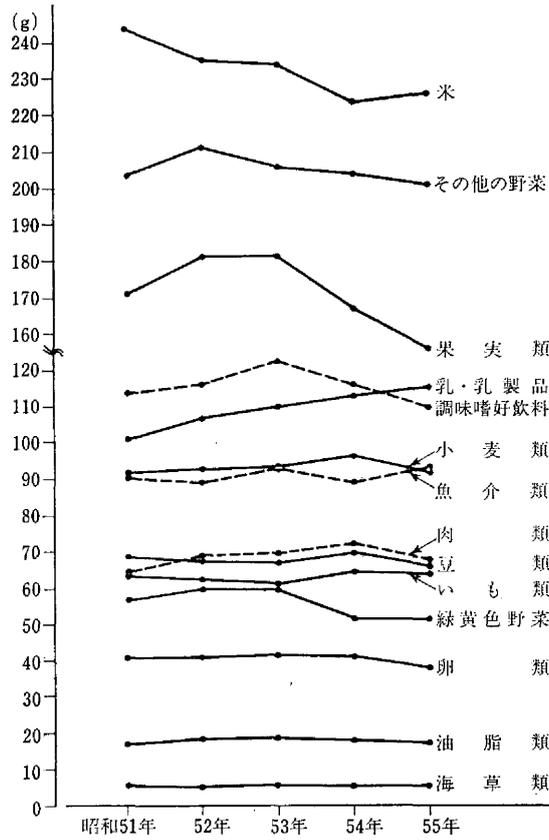


図 3-1 エネルギーの食品群別摂取構成 (%)

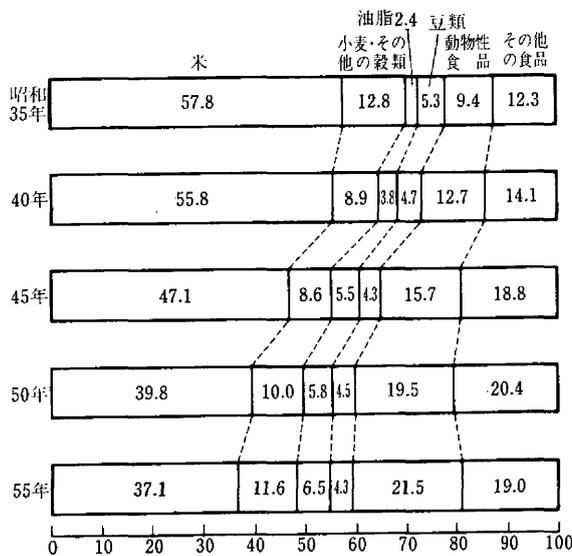


表 3-1 エネルギーの食品群別摂取構成 (%)

	昭和51年	52年	53年	54年	55年
米 類	38.5	37.4	37.8	36.1	37.1
小麦その他の穀類	11.6	11.6	10.8	11.7	11.6
油 脂 類	6.3	6.6	6.8	6.8	6.5
豆 類	4.4	4.4	4.3	4.5	4.3
動物性食品	19.5	20.1	20.5	21.1	21.5
その他の食品	19.7	19.9	19.8	19.8	19.0

### 3. 栄養素の食品群別摂取構成

主要栄養素であるエネルギー、たん白質、脂肪について食品群別にどのような比率で摂取しているかを年次推移でみると図3-1～3のとおりである。

この20年間における国民の食生活は、主食である米の摂取量が減少する一方で、動物性食品の摂取量が増加するといったパターンで変化をしてきたところである。

しかしながら、表3-1～3で明らかとなり、ここ数年間における変化は小さく、55年調査では前年(54年)とほとんど変わらない結果となっている。

図 3-2 たん白質の食品群別摂取構成 (%)

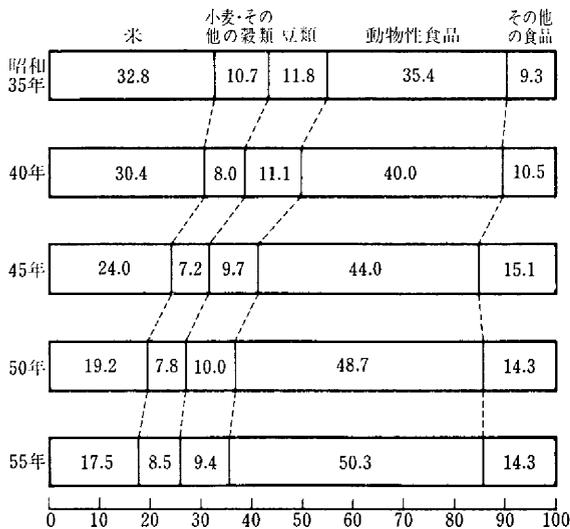


表 3-2 たん白質の食品群別摂取構成 (%)

	昭和51年	52年	53年	54年	55年
米 類	18.7	18.0	18.1	17.2	17.5
小麦その他の穀類	8.8	8.9	8.4	8.6	8.5
豆 類	9.8	9.6	9.5	9.8	9.4
動物性食品	48.4	49.0	49.7	50.2	50.3
その他の食品	14.3	14.5	14.3	14.2	14.3

図 3-3 脂肪の食品群別摂取構成 (%)

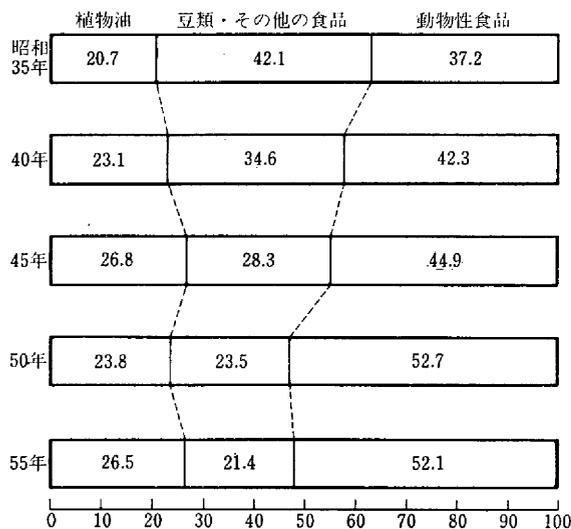


表 3-3 脂肪の食品群別摂取構成 (%)

	昭和51年	52年	53年	54年	55年
植 物 油	26.0	26.4	27.1	26.7	26.5
豆類その他の食品	22.6	21.7	21.3	20.9	21.4
動物性食品	51.4	51.9	51.6	52.4	52.1

#### 4. 世帯業態別にみた食生活

##### (1) 栄養素の摂取状況

昭和55年調査における世帯業態別の栄養摂取量は表4のとおりである。

農家世帯は非農家世帯に比べて、エネルギー、たん白質、鉄、ビタミンC等の摂取量が上回っている一方で、動物性たん白質、脂肪、ビタミンA、ビタミンB<sub>1</sub>、ビタミンB<sub>2</sub>等の摂取量は下回っている。しかしながら、年次推移をみた場合には、いずれも格差は年々減少する傾向がみられる。

なお、各世帯業態別にそれぞれの平均栄養所要量に対する充足状況についてみると、常用勤労者世帯が若干所要量に満たない栄養素はあるものの全般的には最も上位の水準にある。

表4 栄養素等摂取量(全国、世帯業態別)

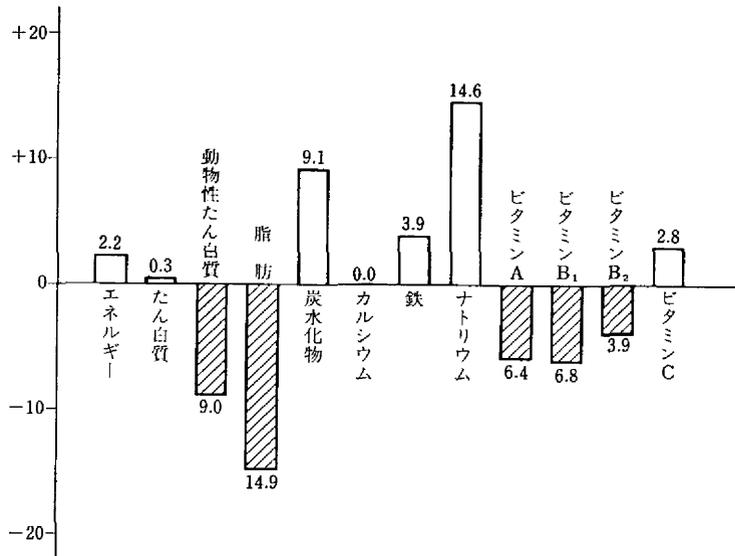
(1人1日当たり)

	全 国	農 家 世 帯			非 農 家 世 帯			
		平 均	専業世帯	その他の世帯	平 均	自営業者世帯	常用勤労者世帯	日雇労働者世帯
調 査 世 帯 数	6,456	892	216	676	5,571	1,119	3,780	77
エ ネ ル ギ ー kcal	2,084	2,122	2,173	2,107	2,076	2,069	2,090	2,026
た ん 白 質 g	77.9	78.0	78.7	77.8	77.8	78.3	78.0	75.4
うち動物性 g	39.2	36.2	35.7	36.4	39.8	39.9	40.1	37.6
脂 肪 g	52.4	45.8	45.2	45.9	53.8	51.6	55.3	44.5
うち動物性 g	27.2	22.5	21.6	22.7	28.4	27.2	29.2	23.5
炭 水 化 物 g	313	336	349	332	308	309	308	317
カ ル シ ウ ム mg	535	535	539	534	535	523	540	468
鉄 mg	13.1	13.5	13.6	13.5	13.0	13.1	13.0	12.1
ナ ト リ ウ ム g	13.0	14.7	14.8	14.6	12.7	13.1	12.5	12.2
(食塩換算)								
ビ タ ミ ン A IU	1,576	1,492	1,531	1,481	1,594	1,514	1,624	1,319
B <sub>1</sub> mg	1.16	1.10	1.12	1.09	1.18	1.17	1.19	1.07
B <sub>2</sub> mg	1.01	0.98	0.97	0.98	1.02	1.00	1.03	0.94
C mg	107	110	116	108	107	105	107	85
穀類エネルギー比 %	48.7	52.8	53.8	52.5	47.7	48.7	47.2	53.7
動物性たん白質比 %	50.3	46.4	45.4	46.8	51.2	51.0	51.4	49.9
平均する栄養所要量に(%)								
エネルギー	106.5	104.0	101.9	104.1	107.2	104.5	107.8	100.7
たん白質	121.2	121.5	120.9	121.8	121.0	120.8	121.5	118.4
カルシウム	89.6	89.2	88.5	89.4	89.8	86.9	90.9	82.1
鉄	122.4	127.4	123.8	127.4	121.5	122.4	121.5	114.2
ビタミン A	89.6	83.6	85.9	83.0	90.9	85.6	93.2	76.2
B <sub>1</sub>	146.8	132.5	130.2	132.9	151.3	146.3	152.6	132.1
B <sub>2</sub>	93.5	86.7	83.6	87.5	95.3	91.7	96.3	84.7
C	218.4	224.5	236.7	220.4	222.9	214.3	222.9	177.1

##### (2) 食品の摂取状況

食品の摂取量を農家世帯と非農家世帯の別に比較してみると、表5、図5のとおりである。農家世帯は非農家世帯に比べて米類、いも類、豆類、その他野菜、海藻類、魚介類の摂取量は多いが、小麦類、油脂類、肉類、卵類、乳・乳製品等の摂取量は下回っている。

図 4 農家世帯と非農家世帯の栄養摂取状況比較 (非農家世帯=100)



なお、前年(54年)と比較をした場合、農家世帯は米類、小麦類がともに減少を示したが、非農家世帯は米類が若干の増加をする一方で小麦類は減少している。

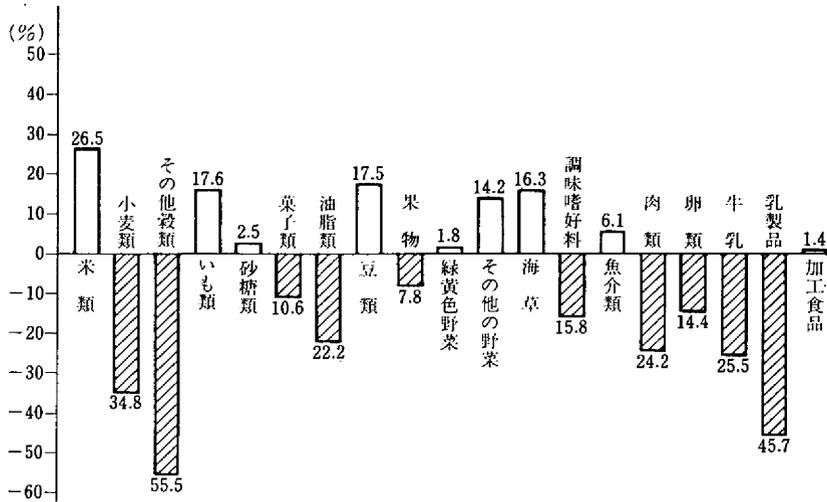
また、動物性食品については農家世帯、非農家世帯ともに魚介類と乳類が増加し、肉類、卵類が減少している。

表 5 主要食品群別摂取量

(1人1日当たり: g)

	全 国		農 家		非 農 家	
	54 年	55 年	54 年	55 年	54 年	55 年
穀 類	320.7	319.1	342.3	337.7	316.2	314.9
米 類	222.6	225.8	273.8	272.5	212.1	215.5
小 麦 類	96.3	91.8	67.0	63.8	102.4	97.9
い も 類	63.9	63.4	74.3	72.2	61.7	61.4
砂 糖 類	13.6	12.0	15.4	12.2	13.2	11.9
菓 子 類	25.0	25.0	25.0	22.8	25.0	25.5
油 脂 類	18.0	16.9	15.1	13.7	18.7	17.6
豆 類	69.4	65.4	82.0	74.5	66.8	63.4
果 実 類	166.5	155.2	161.3	145.1	167.6	157.4
緑黄色野菜	51.0	51.0	52.5	51.8	50.7	50.9
その他の野菜	194.7	192.3	219.0	214.2	189.6	187.5
きのこ類	9.7	8.1	9.6	9.0	9.7	7.9
海草類	5.3	5.1	5.5	5.7	5.2	4.9
調味嗜好飲料	115.6	109.7	100.5	95.5	118.8	113.1
魚介類	88.8	92.5	92.8	97.1	88.0	91.5
肉 類	71.7	67.9	58.6	53.8	74.5	71.0
卵 類	41.1	37.7	37.8	33.1	41.8	38.7
乳 類	112.9	115.2	81.3	88.3	119.6	121.0
加工食品	5.8	7.0	6.2	7.0	5.7	6.9

図 5 農家世帯と非農家世帯の食品別摂取状況比較（非農家世帯=100）



## 5. 食塩の摂取状況

食塩の摂取量については、その過剰摂取が高血圧や心臓病など循環器疾患に対して悪影響をおよぼす一つの因子であることから、前年（54年）の調査ではじめて分析を行ったところであるが、55年調査の食塩摂取状況は次のとおりである。

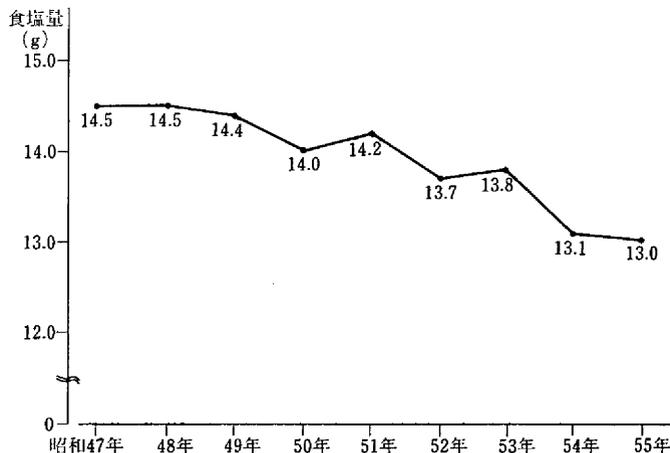
—— 1人当たり食塩摂取量は13.0gである ——

昭和55年調査における国民の全国平均1人1日当たり食塩摂取量は13.0gである。

前年(54年)調査の食塩摂取量は13.1gでありほとんど変わらないが、日本人の栄養所要量で示されている1日10g以下が望ましいとする適正摂取目標量に比べて少なくとも3gとりすぎていることになる。

次に、年次推移についてみると図6のとおりで、食塩の摂取量はゆるやかながらも減少傾向にある。

図 6 1人1日当たり食塩摂取量の年次推移（全国平均）



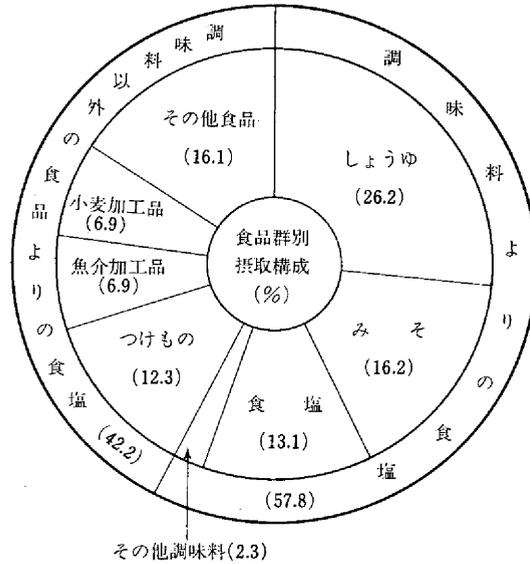
—— 食塩摂取量の57.8%は調味料が占める ——

次に、食塩をどんな食品からどれ位の割合で摂取しているか、その摂取構成についてみると図7のと

おりである。

この図で明らかなとおりしょうゆ、みそ、食塩、その他調味料で全体の57.8%を占めており、その他の食品ではつけもの類が12.3%、魚介加工品が6.9%、パン、めん類等の小麦加工品が6.9%であり、その他の食品は16.1%という摂取構成になっている。

図 7 食塩の食品群別摂取構成



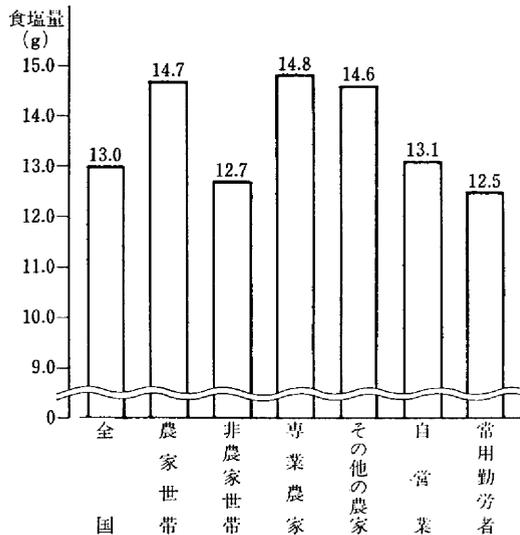
——世帯業態別では農家世帯の摂取量が多い——

次に世帯業態別に摂取量を比較すると図8のとおりである。

農家、非農家の比較では、農家世帯14.7g、非農家世帯12.7gと農家世帯の方が摂取量は多い。

また、世帯業態別で最も摂取量の多いのは専業農家世帯の14.8gであり、少ないのは常用勤労者世帯の12.5gである。

図 8 世帯業態別 1人1日当たり食塩摂取量



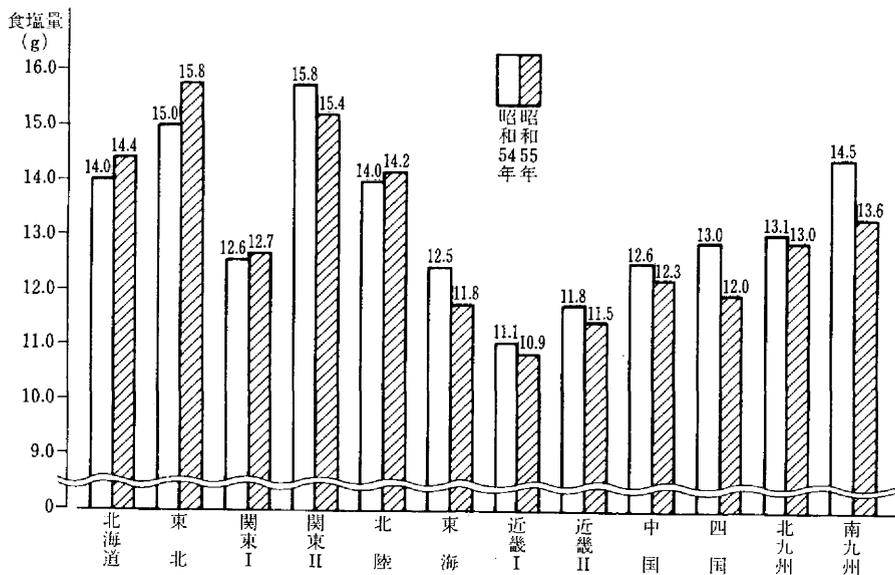
——近畿 I ブロック (京都府, 大阪府, 兵庫県) は適正摂取目標値にあと一步——

地域ブロック別に食塩の摂取量をみると図9のとおり東北ブロック (青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県) 及び関東 II ブロック (茨城県, 栃木県, 群馬県, 山梨県, 長野県) はそれぞれ15.8 g, 15.4 g と適正摂取目標量を大幅に上回って摂取しており, 次いで北海道が14.4 g, 北陸ブロック (新潟県, 富山県, 石川県, 福井県) が14.2 g と多く摂取している。

一方, 最も少ないのは近畿 I ブロックの10.9 g であり, 10 g 以下が望ましいとする適正摂取目標値にあと一步というところである。

概して, 食塩の摂取量は東が高く西が低いという結果が示されている。

図 9 地域ブロック別 1 人 1 日 当 たり 食 塩 摂 取 量



(参 考)

ブ ロ ッ ク	都 道 府 県 名
北 海 道	北海道
東 北	青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
関 東 I	埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県
関 東 II	茨城県, 栃木県, 群馬県, 山梨県, 長野県
北 陸	新潟県, 富山県, 石川県, 福井県
東 海	岐阜県, 愛知県, 三重県, 静岡県
近 畿 I	京都府, 大阪府, 兵庫県
近 畿 II	奈良県, 和歌山県, 滋賀県
中 国	鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
四 国	徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
北 九 州	福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県
南 九 州	熊本県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

なお, 食塩の食品群別摂取構成を東北ブロック, 関東 II ブロック, 関東 I ブロック, 近畿 I ブロックについて比較してみると図10のとおりである。

各ブロックともしょうゆからの摂取量が最も多く, 東北ブロック及び関東 II ブロックは近畿 I ブロ



次に欠食の多い朝食について年齢階級別にみると表10のとおりである。

欠食の最も多い年齢階級は男女共に20歳代で、男27.5%、女19.7%となっており、次いで男では30歳代の17.8%、女では10歳代の13.3%となっている。

表 10 朝食の欠食状況 (性, 年齢階級別)

(%)

		15~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60歳以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総	数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
3日間の 欠食回数	なし	85.8	86.7	72.5	80.3	82.2	88.3	89.3	91.4	92.3	93.3	94.8	95.2
	あり	14.2	13.3	27.5	19.7	17.8	11.7	10.7	8.6	7.7	6.7	5.2	4.8
	1回	5.9	6.4	9.9	8.2	7.4	4.3	5.3	3.3	3.7	3.1	2.9	2.1
	2回	2.9	2.1	6.0	4.4	3.6	2.2	1.8	2.1	1.6	0.9	0.6	0.9
	3回	5.4	4.8	11.5	7.2	6.7	5.2	3.6	3.2	2.3	2.7	1.7	1.7

## 6. 外食の状況

3日間の調査期間中における外食の状況は表11のとおりである。

男女とも昼の外食が多く、1回以上外食した者の割合は男53.4%、女37.4%である。また、3日間とも昼食を外食した者は男31.7%、女13.6%となっている。

次に前年(54年)調査と比較すると、男女ともに朝食、夕食の外食が若干増加する一方で、昼食の外食割合は減少を示したことが注目される。

なお、外食の比率が高い昼食の外食内容について、性別、年齢階級別にみると表12のとおりである。

表 11 外食状況 (年次別)

(%)

		男					女				
		昭和51年	52年	53年	54年	55年	昭和51年	52年	53年	54年	55年
朝	総	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	なし	94.5	93.8	93.9	94.4	92.4	97.1	97.3	97.1	97.4	96.6
	あり	5.5	6.2	6.1	5.6	7.6	2.9	2.7	2.9	2.6	3.4
	1回	3.4	3.6	3.5	3.2	4.2	2.1	1.7	1.8	1.7	2.0
	2回	1.0	1.2	1.3	1.1	1.6	0.4	0.4	0.5	0.4	0.7
	3回	1.1	1.4	1.2	1.3	1.8	0.4	0.6	0.6	0.5	0.7
昼	総	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	なし	43.6	41.1	40.9	39.7	46.6	56.7	56.3	54.2	53.9	62.6
	あり	56.4	58.9	59.1	60.3	53.4	43.3	43.7	45.8	46.1	37.4
	1回	12.1	11.2	11.1	11.3	12.2	14.5	14.8	15.5	15.4	16.5
	2回	12.9	9.8	9.9	10.3	9.5	10.4	8.3	8.8	8.6	7.3
	3回	31.4	37.8	38.0	38.7	31.7	18.4	20.5	21.4	22.1	13.6
夕	総	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	なし	82.1	80.5	80.3	80.7	75.2	88.5	87.8	87.4	87.6	84.8
	あり	17.9	19.5	19.7	19.3	24.8	11.5	12.2	12.6	12.4	15.2
	1回	12.1	12.8	13.4	12.6	15.2	8.8	9.3	10.0	9.5	11.2
	2回	3.2	3.7	3.7	3.9	5.4	1.7	1.8	1.7	1.9	2.3
	3回	2.6	3.0	2.6	2.9	4.1	1.0	1.1	0.9	1.0	1.7

表 12 昼食の外食内容 (性, 年齢階級別)

(%)

		総 数	そば, うどん類	パ ン 類	和 食	洋 食
男	15~19歳	100.0	22.1	38.4	24.3	15.2
	20~29	100.0	26.1	6.5	44.7	22.7
	30~39	100.0	29.9	3.5	49.0	17.6
	40~49	100.0	35.2	2.7	46.9	15.2
	50~59	100.0	32.2	5.5	51.3	11.0
	60歳以上	100.0	37.0	10.0	45.8	7.2
女	15~19歳	100.0	15.9	57.5	18.0	8.6
	20~29	100.0	33.6	20.5	33.4	12.5
	30~39	100.0	40.5	15.8	31.8	11.9
	40~49	100.0	42.8	14.4	35.4	7.4
	50~59	100.0	39.9	9.6	44.2	6.3
	60歳以上	100.0	40.3	7.8	48.6	3.3

## 8. 身 体 状 況

## (1) 肥 満

皮下脂肪厚 (上腕背部+肩甲骨下部) の測定結果による肥満者 (男40mm以上, 女50mm以上) の状況は表13のとおりである。

前年 (54年) 調査に比べて, 男は15~19歳を除く年齢階級は全て減少を示しており, 女についても30歳以上の年齢階級については減少を示している。

なお, 年次推移をみた場合, 男女各年齢階級とも年度によって若干の増減をくり返してはいるものの, 全体的には減少傾向がみられる。

表 13 肥満者の年次推移 (皮下脂肪厚: 男40mm以上, 女50mm以上)

(%)

		15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳
男	昭和50年	10.8	12.7	17.8	18.5	16.3
	51年	10.1	13.6	16.6	16.2	16.0
	52年	10.6	12.2	17.2	17.5	17.6
	53年	8.9	13.5	12.6	15.0	14.6
	54年	8.3	11.4	14.9	15.0	15.2
	55年	9.4	10.6	10.6	12.4	11.0
女	昭和50年	10.7	12.4	20.7	27.0	25.8
	51年	12.1	13.0	21.8	28.0	30.5
	52年	14.3	14.6	19.3	27.4	27.7
	53年	10.4	9.9	17.6	22.4	22.9
	54年	8.6	10.3	17.9	24.7	23.8
	55年	10.3	12.4	17.0	21.8	22.8

## (2) 血圧の状況

血圧の測定結果については表14のとおりである。

高血圧者は男女ともに加齢につれて増加し、40歳代では男19.3%、女11.9%、50歳代では男28.7%、女21.1%、60歳代では男35.9%、女30.3%となっている。

なお、ここでいう高血圧、境界域などの基準は次のとおりである。

- ① 高血圧は最高血圧 160mmHg 以上または最低血圧 95mmHg 以上の者。
- ② 境界域は最高血圧 140～160mmHg 未満の者及び最低血圧が 90～95mmHg 未満で高血圧に含まれない者。
- ③ 正常は最高血圧 90～140mmHg 未満かつ最低血圧が 90mmHg 未満の者。
- ④ 低血圧は最高血圧 90mmHg 未満の者。

表 14 血 圧 の 状 況 (性, 年齢階級別)

(%)

年 齢	総 数(実数,人)	低 血 圧	正 常	境 界 域	高 血 圧	
男	15 ～ 19歳	100.0 ( 536)	0.2	91.7	7.3	0.8
	20 ～ 24	100.0 ( 328)	-	86.2	12.0	1.8
	25 ～ 29	100.0 ( 476)	0.2	83.1	11.6	5.1
	30 ～ 39	100.0 (1,751)	-	74.9	15.9	9.2
	40 ～ 49	100.0 (1,604)	-	54.7	26.0	19.3
	50 ～ 59	100.0 (1,289)	-	42.3	29.0	28.7
	60 ～ 69	100.0 ( 814)	0.1	31.0	33.0	35.9
	70 歳 以 上	100.0 ( 607)	0.2	23.6	32.2	43.9
女	15 ～ 19歳	100.0 ( 603)	0.2	98.0	1.7	0.2
	20 ～ 24	100.0 ( 473)	0.6	95.9	2.8	0.6
	25 ～ 29	100.0 ( 556)	0.2	96.0	3.1	0.7
	30 ～ 39	100.0 (1,822)	0.2	88.8	8.1	2.9
	40 ～ 49	100.0 (1,726)	0.1	68.8	19.1	11.9
	50 ～ 59	100.0 (1,479)	0.1	49.3	29.5	21.1
	60 ～ 69	100.0 (1,034)	0.2	35.1	34.4	30.3
	70 歳 以 上	100.0 ( 768)	-	25.3	32.8	41.9